

# 望郷、母校愛そして伝統

## 三支部を訪問して

湖陵同窓会長 久 本 甫

### 江南と合同の懇親会

#### 十勝支部

春の息吹を感じとられる広々とした十勝平野、例年より一月遅れの十勝支部総会へ出席のための、三月も末の日曜の朝、関口幹事長とのドライブ。十勝支部は湖陵・江南が合同で行なわれます。但し総会セレモニーの部分は別々。湖陵の出席者は五十名前後。河崎会長と長谷川副会長の名コンビで総会の殆どを仕切り、丁度同期会でも開いている様な和やかな感じ。総会終了後は参加者の数が左程多くない事もあって全員で記念写真を撮って懇親会場へ。

江南卒の三十名程を加えての合同懇親会は、先ず両校の校歌から始まります。江南には釧女時代から数えて三つの校歌があり、同じ学舎を出ても卒業年代より他の二つの校歌を知らない云う、我がが釧中、湖陵同窓生には考えられない悲劇を目にします。大正から平成の今日まで、同じ校歌を歌う湖陵の参会者の顔を見ると、そこに伝統を感じ取らない訳にはいきません。校歌の後の来賓挨拶は、十勝近郊に在住で釧中・湖中に縁

のある方々が登場します。今年は室田帯広近代美術館長、荒谷釧教大教授そして井上元湖陵教諭の三方。それぞれに湖陵奉職時代の思い出話。これがまた大変好評。十勝支部にあつては未だ釧中組が会をリード。余興も手品、カラオケ、当人の商売の宣伝など色とりどり。二次会も殆どが参加して名残つきな総会と云う事。

### 豪華版・エンペラーで総会

#### 札幌湖陵会

札幌の街の土曜の午後。都会の喧噪の真つ只中を、初夏の爽やかな風が頬をつたわります。くまざさ会が発展的解散をして札幌湖陵会となつて今年で五年、昨年西条前会長から栗林新会長へと一気に十六期も若がえり、新役員は湖陵一色となりました。会場は例年通

釧中出身青木氏がオーナーのキャバレー、エンペラー。出席者は三百名以上。しかも出席者の氏名が会誌に発表されている事は事前に欠欠と探っていると云う事で当番幹事の答務を察する次第です。大変簡潔な総会に続く懇親会はゲームや籤引きなど時間のかかるもの

は一切なく、テーブルごとに各期がまとまつて話に花を咲かせ笑いがとぶ。其の間ステージでは今年のはローレライのミュージシャンによる大変ハイセンスなポピュラー音楽が演奏され、参会者の手拍子やハミングも加わつて会場の雰囲気

を洗練された、キャ札幌ならではの感じで盛り上げていきます。総会出席者の三分の一は釧中卒で、札幌でもまだまだ釧中健在と云つた感じ。但し受け付けを始め随所に若い女性の動きが目立ちます。又同窓会館建設の熱意も厚く私自身会長として叱咤激励を受けたところでありました。この母校愛は殊更釧中卒に感じられ、本部署員の責務を感じた次第であります。

霧を気にしながら関口幹事長と釧路空港へ。総会当日の上京のため欠航の際には全てがおじゃん。観光シーズンと云うのに驚く程空席が目立つ飛行機が飛んで無事羽田へ。小雨けふる宵の銀座を漫ろに歩きながら、今年の総会場東京

### 釧中一ケタ末だ健在

#### 東京支部

駅大丸デパートのルビーホールへ向う。東京支部総会は年度当初の予定を遅れる事二カ月、約百名の参加者を集めて開催。二年前の発会式に三百名近くが集まった事を考えると稍寂しい総会。河村会長の熱気溢れる挨拶。例の名調子の話も今総会が最後。同窓会活動も軌道に乗つて本年度より新会長は独協大教授の栗村氏へバトンタッチ。設立準備以来の立役者沢山氏は再び幹事長として留任されました。退任された河村大先輩への惜しみない拍手、そして栗村新会長の大変控え目な、しかし力強い就任挨拶は、参会者の同窓意識を一層確かなものにした事と思われま

す。東京支部もその土地柄の所為か五十代以上の同窓が多く、長く或いは早くに釧路を離れた方々は母校の、同期の、そして釧路の情報を渴望している事を感じとつてまいりました。二時間に渡るルビーホールでの同窓生の交流は熾し銀の様に光り若い女性の同窓生はホルルの名の如くルビーの様に眩いばかりに輝いておりました。今後のより一層の発展を祈る次第であります。此の度、関口幹事長と二人で三支部総会に出席してまいりました。この貴重な機会を与えて下さいました同窓各位に衷心より感謝申し上げます。



# 札幌

# 支部だより

## 東京

### 札幌湖陵会活動報告

札幌湖陵会幹事長 佐々木 康 二  
(湖陵13期)

平成三年六月の札幌湖陵会定期総会で西條会長、石井幹事長の先輩の後を受けて、湖陵十三期の栗林正明会長、その事務局長として佐々木(旧姓寅谷)が幹事長をお引受けして一年が経過しました。私(佐々木)は湖陵高校全日制に入学したのですが、二年生になってから定時に転校しましたので実際の卒業は湖陵高校定時制の卒業生となっています。私が札幌湖陵会の同窓会員になる時にも、同窓生の資格はないと思っていたのですが、札幌湖陵会の規約には「在学した経歴をもっている者」との規約により入会した訳です。

今年、新執行部による初めての定期総会は六月二十日に我等が青木馨先輩が会長を務めになつて行われた。札幌湖陵会を運営する目的の一つとして、大体全員の暗黙の了解を得ていると思うのですが、総会を通じて同期会の交流を活発にすることです。その為には同期会のメンバーと一緒に群れを構成できるキャバレーエンペラーのボックス型の客席は非常に具合が良いのです。時々、ホテルの大広間などで立食パーティー方式での総会開催はどうかとの声を聞きますが、六十歳をこえた先輩などにご意見を伺うと、「そんな大広間で同期生を探して歩くのは大変だ。五人も十人も輪になつて立って話をするような会合に出席したくない。足も体も疲れる」との圧倒的なご意見。そんな訳で、毎年、キャバレーエンペラーさんの多大なご協力を頂いて同期会の連合方式で総会を開催して



栗林会長あいさつ

総会の式次第は、まず校歌斉唱から始まります。日出する国の北陸に「で始まる湖陵校歌は名曲、名歌詞であります。湖陵の校歌は、旧制中学時代から新制高校への歴史の激動にも関わらず、釧中時代より変わらない校歌とのことで、八十歳をこえた先輩から三十歳の後輩まで、それぞれの青春時代の様々な思いをこめて同じ校歌を歌うことができるのはありがたいことと思っております。昨年九月二十九日の開校八十年・定時制七十周年並びに校舎改築落成記念式典に出席させていただきましたが、校歌斉唱が始まった時に、私も含めて周囲の諸先輩は胸につまるものがあつていつに落涙寸前となり声がでない方が周囲に沢山おられました。私は時々湖陵校歌を口ずさみますが、その時の私の感情は数十年の年月の経過など何もなく瞬時に高校生の十六歳に戻つたような気持ちになります。ただ、惜しむらくは、湖陵全日制に入學し湖陵定時制を卒業した者として、湖陵全日制と



久本会長のあいさつ

湖陵定時制は校歌が別々です。可能であれば同一の校歌にできないものかと思いました。

御卒業・御入学の  
晴れの日を  
歴史の1ページに...

釧路市幣舞町2番2号

# 株式会社 吉井写真館

代表取締役 吉井 祥 朔 (湖陵18期)

電話 41-4798番

札幌湖陵会の年間定期的な行事は、

四月上旬 常任幹事会開催

定期総会準備のスタート 顧問、各期幹事、役員顔ぶれ確認と総会運営方針の確認 札幌湖陵会報発行の準備

五月初旬 幹事会

年間行事の取組みの討論と取組み方針の決定。総会担当期との打合せ。

以降、恒例の六月の第三土曜日の定期総会に向けて数度の会合を重ねて総会の準備

六月第三土曜日(恒例)

札幌湖陵会定期総会  
札幌湖陵会報発行

八月下旬

顧問・幹事・役員会  
湖陵会運営全体についてご意見を伺う。その後にはビールパーティー。

十二月中旬

顧問・幹事・役員会  
亡年会を兼ねる。

大体以上のような日程行事で札幌湖陵会は運営されております。昨年は開校八十周年・定時制七十周年並びに校舎改築落成記念の行事があり、寄付金募集などの活動がありましたので、その為の会合も組まれております。

一年間、札幌湖陵会の運営に参画して得た感想としては、結束の固い期には必ずその期のまとめ役を快く引き受けて手弁当で活動して下さる人物がいることです。

人は誰でもが齢をとり、サラリ

マンであれば定年の時がきます。それから以降の人生も、昔の人の生涯年数に近い年数を生きる事になります。職業上の交友は定年退職と同時に縁が遠くなってしまいい生涯の友人とはなりにくいものと聞いております。



乾盃の発声 8期 佐瀬氏

## 東京支部総会開催さる

東京支部幹事長 澤山 右尚 (湖陵4期)

湖陵高校校歌が今年も梅雨空の東京にひびき渡りました。

七月十七日、金曜日、午後六時から東京駅ビル、ルビーホールで湖陵同窓会東京支部一九九二年度総会が開催されました。

本年度の当番幹事、湖陵十期の音頭による校歌斉唱に始まり、来賓紹介のあと、今総会限りで退任する河村功(釧中八期)氏より、心残りでもあるが発足当初の重責も果たしたと思うので後輩にゆずる。とのあいさつがありました。

次いで来賓の本部長、久本甫氏より、近況報告とともに、同窓会会館建設事業の予告と、それへの協力要請がありました。

議事は波岡正治(釧中十三期)氏を議長に選び、副議長、丹崎明雄(湖陵五期)氏を補佐に進められ、会計報告、監査報告に次いで規約に基づく役員改選を行い、次の諸氏が選出されました。

- 会長 栗村英二(湖陵一期)
- 副会長 富山秋美(湖陵二期)
- 〃 牧田容子(湖陵七期)
- 〃 小澤良昌(湖陵八期)
- 幹事長 澤山右尚(湖陵四期)
- 会計監事古市忠男(湖陵八期)
- 〃 滝沢圭剛(湖陵九期)

任期はいずれも二年間です。新任会長あいさつの後、新役員による新事業計画など会計収支案

が審議、可決され、懇親会に移りました。

懇親会は、釧中七期の永井保氏の力強い乾盃の音頭に始まり、先輩、同期、後輩の入り乱れるなか、故郷釧路の思い出に、学舎の思い出に話しの花を咲かせて時のたつのを忘れる程でした。

ラストは来年度総会当番幹事の指名を受けた湖陵二七期の力強いエールで幕を閉じ、来年の再会を約しました。

会場に文字通り花を添えた澤山市長からの盛花は参加した女性の大切なおみやげになりました。東京支部会員は、釧中一期の佐々木一雄を筆頭に、現在約二二五〇名の登録になっております。

移り替りのはげしいのが特色で、郵便連絡のたびに十五%前後の会員の不明、移動があります。来年度事業には、組織強化のためにも名簿の再編が予定されています。

外注によるコンピュータ登録も稼働しているものの会員はあくは難事なものです。

釧中を中心とする先輩の皆さんのご意見もあり、役員若返りを図りましたが、更に一層の若返りと、若年層の組織化が急がれるようです。

釧路のおみやげに！

しあわせをお菓子にのせて



熊さませんべい

熊さま



釧路市南大通2 ☎41-2121



# 青春譜・湖陵ヶ丘

《26》



釧中32期 奥田達也

## 終りにあたり

同窓会誌「くまざさ」を創刊するに際して連載原稿を依頼された。当時の会長が同期の組村眞平、編集委員の人々が先輩知人らであり、拒むわけにもいかなかったし、「釧中物語」の長期連載も終え上梓した後で乗ってもおり、年二回ずつなら何とか継続していけるだろう、と甘く引受けた。

私自身が発刊した新聞、同人誌が三号雑誌の浮き目を何度もみているから、今日まで長く続くとは思ってもみない。言つて悪いが、寄合ひ所帯で発行するのだから、資金的にも、意見の相違による喧嘩別れからも廃刊になる可能性が十分と考えられていた。

ところが担当した釧路市教職員湖陵会は一日の遅れもみせず、卒業式と同窓会総会へ間に合わせ代わった釧路市職員湖陵会も、その意志を今なお継いでいる。

バテ気味だったのは、むしろ私の方だった。毎回、大体の構想を

練つてはいるものの、頁数が編集で決定され、依頼された段階で、何を書くか覚悟を決めて、割付け、下書きをしたためるまでに迷いが生じる。「釧中物語」の二番煎じを感ずるからである。自分の原稿と

## 「湖陵」に引用が嬉しい

### 名論旨から理数科が誕生

はいえ、流布された本からの抜萃に嫌気がさす。締切りは守るべし、本業は忙しい、といったジレンマに陥る。

新しいネタを求めて奔走していても、本誌に適した資料にはならない。つい間に合わせの行儀だけ良いものに収まってしまふ。そんな繰り返しだったように感じられて仕方がない。

卒業式(奇数号)用には万一を考えて修身的なもの、総会(偶数号)用は先輩方の失敗談などを選

んだ。毀譽褒貶を好む私だけに、他人の欠点や若さ故の誤ちを取り上げました。今尚述べているものにも、関係者の生存する重大な事件が残っている。公表して訴えるべきか、だが、この誌上では取り上げるべきではない、と思つてきた。

稿は別誌に連載を始めたなかで発表すべき、と時の経過を待ちながら、表現方法を考えているところである。また書き残しの二つ。昭和四十三、四年の理数科設置にかかる職員会議上で、是の室田

浩志と非の太田常喜両教諭が眞摯に対峙しての討論は、後世にも残る名論旨であり、いずれも言い盡くして他の言を要しない。

しわぶき一つ立てずに肅然と聞きている全教諭の態度もまた、名門湖陵にふさわしい。知識、人格ともに秀れたこうした教諭が在り、選び抜かれた生徒たちが育まれる学舎、それが湖陵高だ。

湖陵理数科がエリート集団と評価され、適性を度外視して志願す

る、とか「落ちこぼれ組」が出るなどの欠点があげつらわれる。確かに差別すれば優劣がつき、序列により劣等感を生む。だが受験戦争や社会に出ての競争では当然に生ずることであろう。英語塾の田中修一先生が誉めるように「秀れた生徒たち」であることは言をまたない。

四十年から始まった道教委の広域人事異動五カ年計画による留任運動の三カ年に及ぶ経過をみるに、かつてあつた釧中第一ストの教師と生徒の愛情から生まれた若き日の情熱であり、青春譜・湖陵ヶ丘に咲いた眞紅の花。そこに在った先生と生徒が忘れ得ない思い出の一駒となつているのである。

「湖陵八十年」に「寮歌」校歌誕生。釧中ストなど本編から引用して戴けたのは嬉しかった。関係者が生存している」とお叱りを受けたことも再三にわたる。そうした悲喜こもごも、悔悟のうち十三年の長きにわたつた。

本誌を汚したザンキの念と、これまで継続させてくださった編集委員の方々に感謝する気持ち一杯である。

最後にあたり、索引がわりに、これまで本編に掲載した号数、題名内容をうかがわせる見出し発行年月日を一覧にして終りたい。

(完)



太陽のように  
明るく暖かい真心で  
良い品をより安く  
ご奉仕する

セオチェーン

- 妹尾商店 新橋大通1丁目 ☎25-5345
- 新富士ストア 新富士駅前 ☎51-3467
- 愛国ストア 愛国西3丁目 ☎36-3399
- 白樺ストア 白樺台1丁目 ☎91-5423
- 昭園ストア 昭と北1丁目 ☎51-8853

さつぽろ地下街オーロラタウン  
ギフトブティック

## ペルソナ

オーロラプラザ前 ☎(011)241-3830

●味が自慢の本格派レストラン●

### ステーキハウスアポロン

新橋大通1丁目妹尾商店向 ☎25-7023  
営業時間 AM11:00~PM9:00

# 「青春譜・湖陵ヶ丘」一覽表

号数	目次	見出し	発行年・月・日	号数	目次	見出し	発行年・月・日
一	釧中の誕生	「不平あらば我と一騎打」	S 55・4・1	十五	阿寒紀行(後)	御来迎に歓喜する	S 62・3・10
二	釧中運動会	怒鳴る審判長に感激の校長	S 55・8・10	十六	野球黄金期	強風に命がけ漕ぐ大探険 電柱で助けてくれ	S 62・8・9
三	親友生まる	「中川を生かしておけ」と、八代 貴族と乞食が友情	S 56・3・10	十七	同級制裁	教師の優勝酒に酔っぱらい 幼なじみと歩き	S 63・3・3
四	師弟愛の胸像	阿部校長の愛・真目に 寮生が春採湖水で墜溺	S 56・8・9	十八	戦後の戦	鉄拳の嵐を受けた戦時中 檄文を掲げ制裁を免れる	S 63・8・14
五	校風刷新事件	「清涼剤」と同情から 郷「ザンキ」と二度の碑文	S 57・3・2	十九	予科練帰	恩師が復学努力 「愛国心の現れ」も退学へ	H 1・3・10
六	修学旅行	釧中生、熊に襲わる！ ラジオで札幌放送初失敗	S 57・8・15	二十	釧中第二スト	教師の追放で一日だけ 全国各地に「教育環境の不満」で学校スト起こる	H 1・8・13
七	卒業答辞	「貴い揺籃よさらば」 成績下位者が無原稿で	S 58・3・10	二十一	寮歌いま尚	建白書いられず先輩に仲裁を頼む 我が青春と愛唱は続く	H 2・3・10
八	釧中スト	愛情教師の誠首に反対 進学率向上を 佐藤校長 資金流用つく 中川先輩 弁天さん社務所に立てこもる上級生	S 58・8・16	二十二	応援団の復活	採譜され承継の青春歌 「校歌と寮歌は我が足跡」と菅原覚也元教諭	H 2・8・10
九	校歌誕生	美人教師指導に歓声 菅原覚也の作詞による	S 59・3・8	二十三	男女交際	名曲鑑賞など名目 学生界のリーグを自覚	H 3・3・3
十	鬼を投げる	勘忍袋の緒きれて 放校されるも母校愛燃ゆ	S 59・8・12	二十四	勤労作業	バツタのように空を飛んだ 中学2年で泊りがけ動員された 釧中33期生	H 3・8・11
十一	市民運動会	逆転劇の花・利光 美談とされたストーム	S 60・3・9	二十五	湖陵八十年	資料を整理し集大成した 永田・和田が万人に興味をもたせ価値を高めた 写真だけで不足と文をつげくわえる	H 4・3・10
十二	ラブレター	美しき鎮魂歌よ 「忌むしき」と叱責される	S 60・8・15				
十三	いじめ	屈辱感を受けよ 人生の成長に役立つもの	S 61・3・10				
十四	阿寒紀行(前)	先輩の評判に笑み なぜ苦しまねばならぬ？	S 61・8・10				

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

れんが屋★AM 11:00～PM 11:00

トロイカ★AM 8:00～PM 11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

**釧路パシフィックホテル**

中村 隆(釧中27期)

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811



# 当番期紹介

(湖陵高校20期) 高橋 滋



我が母校、湖陵高校を四十三年に卒業し、足かけ二十五年の歳月が流れた。まさに四半世紀である。時の移り変りとは早く、ふり返ると感無量の想いでありませぬ。

時を学生時代にもどすと、私達の時代はベビブームの頂点の頃であり一学年九クラスを有していた。これだけの学生がいると実に華やかである。

思い出の語り始めは何と云っても、行燈行列であります。行燈に点灯し力強く燃える灯を目に浮かべると、若かりしの話とはいえず、それぞれの心の中に青春ならではの、仄かなそして淡い思いが昨日の出来事のように浮かんでくる。まだある。修学旅行も、スポー

ツ大会も、そしてマラソン大会も、語り始めると尽きることがない。ただ残念なことは伝統とされていとうさぎ狩りが入学とともに取り止めとなり、一度も体験できなかったことである。

こんな色々な思いを秘めた二十期が各クラスに呼びかけ幹事会を開催した。さすがに現在活躍している四十代、活発な意見交換が行なわれた。当日は来場者が楽しく語り合い、気持ち良くゲームに参加し、「あ!!」とどこかで驚きがあるものにした。この一念で企画を推進しております。みな様のご協力をお願い申し上げます。

この機会に二十期の同期会が発足する事になりました。誠に喜ばしいことであり、この様なチャンスを与えていただいた同窓会のみな様に深く感謝申し上げます。

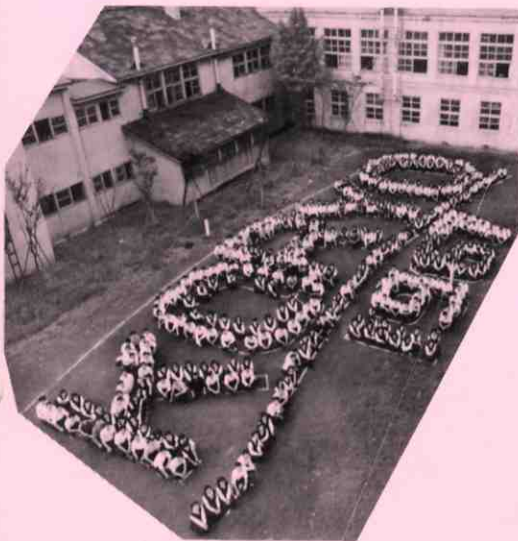
今や同窓会の情報が全国に流れ、問い合わせの電話も入っております。毎年行なわれている同窓会は湖陵の情報交換の場であり、力強く人生を生き抜いている、いや生き

抜こうとしている我ら湖陵の心の寄りどころであります。

「日いる国の……」そうです、校歌を口づさみ、先輩や後輩と、そして、友と青春の日々を再現してみようではありませんか。

頼りがいのある十期の先輩に支えられ行動あふれる三十期とともに、私たち二十期は今や遅しと出番を待っています。

(釧路商工会議所広報課長)



## ゴルフショップ 三幸

新橋大通 5 - 1

代表 宮本英司

——先輩、後輩よろしく頼みます。湖陵17期——



# 「社会人一年生」

湖陵44期 濱 下 直 仁

平成四年三月、湖陵高校を卒業し、早くも夏を迎えようとしています。

私は卒業後、釧路市役所に就職し、やっと職場の雰囲気も慣れはじめ、まだまだ未熟ではありますが、上司や先輩の方々に教えて頂けながら毎日仕事に励んでいる今日この頃です。

道東有数の進学校である湖陵高校だけに進学を希望する者が大半を占める中で、私はあえて就職という道を選択し、社会人一年生となりましたが、実際社会人となってみると、やはり学生時代にはとてい理解し難い「社会」というものの厳しさを痛感しました。

私が社会人となつてまず最初にしなければならなかった事は、毎日の生活習慣を変える事でした。

正直に言つて、私は学生時代、決して規則正しい生活をしてきたとは言えず、むしろ緊張感や集中力もなく、今に思えば堕落した生活を送っていました。数年間もそんな生活をしていて、ある日を境に急にその生活を変える事という事はとても辛い事でした。しかし、社会人となつて最も痛

感したのは、自分の仕事に対する責任の重大さでした。自分の与えられた事への対応のまずさが、即他人に大きな迷惑をかける結果ともなりかねないのです。

これらの他にも、細かな面で気を遣つたりする事も多く、毎日大変な中で、ふと大学に入学し、割りに自由な生活をしている友人の事を考えると、自分も再び大学入学を目指そうかと思つた事もありました。

本当にこれで良かったのかと考へた事もありました。しかし、こうやって今も仕事に対して情熱を燃やし、毎日仕事に励むことができ

るのも、自分に対する責任の重さ、私を支えてくれる、上司、先輩の力添えだと思ひます。それに応えるためにも、私は一日も早く、一人前に仕事をこなせるように毎日仕事に励みたいと思ひます。

最後になりましたが、在学中の皆さんも、今という貴重な時間を大切に、自分の目標の達成に向けて、尚一層の努力をしてほしいと思ひます。



# 「社会」

湖陵44期 井 上 美 智 子

湖陵高校を卒業して、四カ月が過ぎようとしています。私は、この四月に北海道電力に就職しました。湖陵は九割以上が進学ですの

で、みんなより一歩先に社会の一員になったわけです。…といつても、まだ日も浅いで少し自覚できているのかどうかともわからない慌ただしい毎日が続いています。

入社前は何かと不安がつきまといました。「社会」。あの頃の私には、全く違う厳しい世界のような、何かが変わつてしまうような漠然とした不安がありました。その反面、新しい世界へ踏み出す期待もありました。

今は、肩の力が抜けて充実した毎日を送っています。実際は、舞台が学校から会社へ変わっただけで、あんな不安はずつかり消えてしまいました。根本的には全く違う世界ではあります。周りの方々から学ぶ事が数多くあります。それは人間的にプラスになることであったり、現実の厳しさであったり…。でも、変わらぬことも数多くあります。「社

## 学窓を巣立つ



知性と工夫で勝負する情報集団

### 釧路総合印刷株式会社

〒065 釧路市白金町19の2 TEL 0154-23-9201 FAX 0154-23-9205



## 湖陵同窓会役員

会長	久本 甫(7期)
副会長	遠藤 隆吉(4期)
副会長	本間 秀一(6期)
副会長	大竹 正(5期)
副会長	原 轟戸(7期)
幹事長	関口 政司(10期)
副幹事長	沢田 征矢(13期)
副幹事長	鈴木 豊治(16期)
副幹事長	宮本 英司(17期)
副幹事長	勇 順子(17期)
会計長	山本 寿福(8期)
會計	佐藤 文昭(22期)
會計監査	坂上 洋治(3期)
會計監査	割方 道子(3期)
會計監査	神 峯躬(8期)

## 事務局便り

夏の訪れと共にこの釧路の地にも様々なイベントが開催され、毎日楽しみな今日此の頃ですが同窓会会員の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のこととご拝察申し上げます。また平日頃から当同窓会に對し、ご支援、ご協力を賜わり厚くお礼申し上げる次第でございます。

さて、昨年度は新装あらたな素晴らしい校舎で、湖陵高校開校八十年並びに定時制七十周年さらに校舎落成記念の式典が盛大に挙行された所であります。

式典には地元はもとより全国各地から多くの同窓生の皆様がお祝ひにかけつけ関係者一同見守るなか実に素晴らしい式典が催されました。また在校生の皆様が参列致しましたがどの顔も喜びに溢れ、生き生きと輝やっていたのが実に印象的でございます。

## 吉井副会長退任

同窓会の副会長として活躍いただきました吉井正さんは転勤のために退任いたしました。本当にご苦労様でした。

## 大竹副会長就任

このたび、同窓会の副会長として、教職員湖陵会より大竹正さんが副会長に就任されました。共栄小学校校長です。どうぞ、宜しくお願いたします。

い仲間なるが故に味える最大の喜びではなかるうかと痛切に感じる今日此の頃であります。

さて、月日の経つのは早いもので平成三年度九期、十九期、二十九期の当番幹事期の皆様の大変なご努力により無事総会を終らせて頂きましたのもつい先頃のような気がしておりますが、早や一年が過ぎ、この「くまざさ」が皆様のお手許に渡る時は平成四年度の総会でございます。本年は湖陵十期、二十期そして三十期の当番でございます。例年のことながら平成四年五月に三期合同の打合せを行い、七月上旬に各期の代表幹事の皆様に平成四年度の総会並びに懇親会の開催内容を審議頂いた所でございます。八月九日の総会当日は数多くの同窓生の皆様とお会い出来ますことを今から心待ちにしているところであります。さて前回も触れさせて頂きましたがいよいよ同窓会館建設についてであります。先日開催した役員会で、ある程度具体的な取り組みについて話し合いが持たれた所ですが道との接衝あるいは既存の建設小委員会の問題など早急に解決しなければならぬ課題もあるところでありますが、いずれに致しましても早い機会に実行に移さなければならぬと考えております。しかしなんと申しまして同窓会館建設には同窓生一人ひとりの

ご支援、ご協力をなくして絶対に実現することは出来ません。どうかその折は皆様の最大のお力を借りることになると思われますが是非ご理解を賜わりたく、衷心よりお願い申し上げます。

これからの必ずや皆さんが、母校を愛し、母校在る釧路を思い育むであろうことを確信し、併せてわが「くまざさ」に変わらぬご貢献を賜りますようお願いいたします。今号編みましの後書きといたします。(石川記)

## 原稿募集

くまざさ27号は平成5年3月上旬に発行予定です。

次号では「活躍する同窓生」コーナーがあります。自薦・他薦を問わず、どんどん原稿をお寄せ下さい。

問合先は湖陵高校内くまざさ編集委員会(☎43-3131・緑ヶ岡3-1-31)にご連絡下さい。

## 編集後記

「くまざさ」第26号が、皆さんの貴重な原稿に支えられ発行の運びとなりました。お寄せいただいたお一人おひとりの文章を拝見させて頂いたできますと、皆さんの青春時代や、母校、友人へのひとかたならぬ思い入れを感じることが出来ます。特に、昨今ワープロ全盛の中にあつて肉筆での迫力は正に特筆すべきものがあり、私ども

## 編集委員

久本 甫 上岡 信明  
遠藤 隆吉 平野清次郎  
関口 政司 石川 和男

(平野記)